株式会社エービーエム発行
セーフティファースト
平成28年新年号
安全衛生委員会広報誌

寄稿

代表取締役社長　赤間俊明

新年あけまして
おめでとうございます。

12月25日現在、外は秋枯れ色です。まもなく、一面、真綿色に変わろうとしています。皆様には、雪対策、インフルエンザ対策、ノロ対策に万全を期して下さい。

今年も社員の皆様と縁を大切に、更に縁を広げ深めていければと願っています。

今年、CDお客様感動を推進していくため、行動基準『sho!』を掲げました。セーフティ、ホスピタリティ、チームワークの頭文字を合わせ並べたもので、社員一人ひとりが業務を行なう際に守るべき行動基準を示しています。その中で、セーフティを【私達は全ての安全を最優先に行動します】と規定しました。これは、当該施設で働かれる職員の方、利用されるお客様の安全を最優先に考え行動するということです。昨年12月に清掃作業中、床ワックス塗布と床洗浄で2件、お客様が転倒される事案が発生しました。幸いにもケガはありませんでしたが、安全配慮への欠如そのものでした。原因分析、改善、周知徹底を強く求めます。もう一つは、自分自身の安全を最優先に行動するということです。労働災害を絶対に出さない、この強い決意を行動基準に込めてあります。

これからも、なお一層の研鑽を積み事故ゼロを目指してまいります。

年頭の挨拶

事業統括本部長　岸本　幸博

明けまして
おめでとうございます。

旧年中は、業務に邁進して頂き、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返れば、社内規定の変更・警備課役職階級分離・研修の新たなる試み・業務課検定試験・評価制度試行年・挨拶マスターなど、「働いて良かったと思える会社」にする為、少しずつですが前に進んだ年だった様に感じて居ります。

今年は、更に社員皆さんに「働いて良かったと思える会社」と感じて頂ける様、努力して参りますので、ご協力宜しくお願い致します。

「安全運転の誓い」・「経営方針」・「社是」の実践、連続無災害日数の継続をして頂き、体調にはくれぐれも気を付けて、心のこもった業務をして頂けたらと思っております。

今年一年どうぞ宜しく
お願い致します。

平成27年度　最優秀賞
南陽営業所
五十嵐久人

『労働安全衛生の認識について』

今回、この論文を記入するにあたり、労働安全衛生について改めて考える良い機会となりました。私が入社した当時を振り返りますと、「労働安全衛生」や「労働災害」といった言葉は耳にしましたが、ほとんど理解出来ていなかったように思います。自分には関係がない他人事のように甘く考え、「自分が怪我をして大変なことになるだけ」という非常に安易な認識でした。

私達が通常の職場生活を営む為の様々な基礎になっているのが労働安全衛生であり、日々良好な健康状態で、安全な環境のもと労働をするという一見当たり前に思える事は、一人ひとりの意識や行動から作り上げられているものです。

仕事が忙しくなった時など「労働安全衛生」は後回しにされがちですが、それは大きな間違いです。忙しくなればなるほど注意力は散漫になり、平常時には防ぐ事ができたはずの小さな原因を見逃し、大きな事故に繋がってしまうケースが多いと思います。万が一に労災事故が発生してしまった事態を自分の中でシミュレーションしておくことも、意識の継続や事故の未然防止に対して大きな効果があると考えます。

自分自身や職場の仲間、利用されるお客様、そして家族に対して一体どれほどの影響があるのでしょうか？

私は「ヒヤリハット」な事例が発生した際には、「もし今回のヒヤリハットが事故に繋がっていたとしたらどれほどの方々にご迷惑をおかけしてしまうのか？」と自分が思いつく範囲でノートにして参ります。実際には自分が思いつく限度をさらに超える範囲で影響を及ぼす事になるでしょう。一体どれだけ多方面に及ぶのか？を少し想像しただけでも相当な範囲に広がる事が一目瞭然となり、事の重大さを再認識するようにしています。このような意識を持っていれば、危険だと感じる事への対策を十分に施してからでなければ、作業に取り掛かれない気持ちになります。忙しい時こそ、最優先して意識するべきことは「効率」ではなく「安全」であります。

現在の私は入社して13年ほど経ち、現場の第一線ではなく、管理業務に従事しています。現場からの報告の際に、「何もなかったですか？」という一言だけの報告が上がってくる事が多く見られていました。これは非常に危険を感じる報告であり、現場においてヒヤリハットな事案が発生している事すら気付いていないのではないかという不安がありました。弊社では作業前に「安全作業指示書」といった取り組みがあります。そこには、その日の自分の体調や準備する保護具、そして予想される危険を作業員同士で話し合い、リスクアセスメントし、その安全対策等の情報を全員で共有するといったものです。この取り組みを導入した当初、通い慣れている現場ほど危険が潜んでいる部分が把握出来ていない状況が判明しました。取り組みを開始して以降、今まではこれまでに見逃していた事に対しても報告が上がるようになってきました。さらに安全衛生に関して話し合う事がきっかけで、安全衛生以外の内容についてもお互いに話すようになり、チームワークが格段に良くなったように感じています。最優先すべきは「効率」ではなく「安全」であるとは、私達の職場においても常に大きな危険を作業員同士で話し合うよう注意する事が出来ています。仕事では労災が起きないように注意して業務にあたっていますが、仕事から外れるとどうしても油断してしまい、怪我をしてしまうと思います。やはり労災を無くすには日頃からの注意力が必要になってくるのではないかと思います。職場と私生活ではないかを述べたいと思います。まず、急のつく行動を行わず一呼吸置いてから行動に移す事です。一呼吸を置くという事は、一度呼吸をし、間をあけることで冷静さを取り戻そうとすることを意味する表現となっています。

私の行っている警備の仕事では、巡回業務での安全確認で行っています。ドアを開ける時、開けた後でも「一呼吸置く事で五感を働かせ、不審者の有無・異臭・不審物・異音を素早く察知し、次の行動へ移す事により事故を未然に防ぐ事になると思います。普段の生活でも一呼吸を取り入れる事により、感情的な時・緊張感が続く場面でも気持ちを落ち着かせる事により、ミスも少なくなると思います。

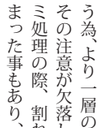
一呼吸を普段から身に付ける事により事故防止に役立つと思われます。

次に必要と思われる事は、集中力を高める事が大事だと思います。悩み事・考え事をしながら仕事をしてしまうと集中力が欠けてしまい、事故に繋がってしまうと思います。工場での大きな事故（切断等）をよく新聞やテレビで見かけたりします。入社したばかりの人ではなく、何年も勤めた人が起こしています。これは集中力が欠けてしまい、油断による事故と思われます。この様なことがないように、普段から危険予測をしっかり行い余計な事を考えず、集中力を高めて行動していく事が重要だと思います。

次に重要なのが規則正しい生活（食事・運動・睡眠）です。これから高齢労働者が増えてくると思われます。車・エレベーター・エスカレーターと便利な物が増え、運動不足になります。労災は梯子・脚立の一段目でも起きます。この様な事が起きないようにするには、やはり食生活ではカルシウムを多くとって骨を丈夫にしたり、危険と感じた時に対応できる運動神経が必要です。普段はにげなく使っているエレベーター・エスカレーターを階段にする事で、つまづいたり息切れしたりと運動不足を感じる事ができますし、運動不足解消にもなると思います。食事も普段から気にかける事により変わってくると思います。睡眠不足は判断を鈍らせるので、しっかり睡眠をとる事が必要と思われます。

同じ仕事をしていると慣れからくる事故は多くなります。どこの会社でも事故ゼロを願っていると思います。事故を起こしても後悔するのは自分です。迷惑も沢山の人にかかります。

我が社の方針に事故ゼロの継続で3つのキーワード「基本作業、集中力、チームワーク」があります。基本作業（ヒューマンエラーの防止）、集中力（緊張感を持つ）、チームワーク（相互チック）で慣れを無くし、不祥事の撲滅を目指し労災ゼロを継続していきたいと思います。



平成27年度　優秀賞
業務課川西湖山病院
渡部晃子

『労働災害ゼロに向けて』

私は、クリーンクルーとして病院清掃に従事して二年目になります。

エービーエムに入社したばかりの頃は、「労働災害」や「連続無災害日数」という言葉は耳にしたことがあったものの、意識を向ける事は無く、無関心でした。しかし、業務に就き、一通りの作業を覚えた頃、ある事が起きました。階段清掃の際にバランスを崩し、転落しそうになったのです。階段清掃は後ろ向きで行う為、より一層の注意が必要となります。その注意が欠落していました。また、ゴミ処理の際、割れた陶器で指を切ってしまった事もあり、これは素手で陶器に触れてしまった事が原因です。二件とも幸い大事には至らなかったものの、一つ間違えれば労災に繋がるヒヤリハット事例でした。この二つの出来事が今の私に「労働災害」や「連続無災害日数」を強く意識させるきっかけとなりました。

他にもヒヤリとした出来事はあったのですが、振り返ると全てに共通する原因がありました。それは「焦り」です。「焦り」は視野を狭め、集中力を欠如させ、労災に対する意識を低下させるのではないでしょうか？そこで「焦り」を生まない「心のゆとり」が必要なのではないかと考えました。私が従事している現場では「一人がみんなの為に、みんなが一人の為に」という事が出来ている現場だと思います。基本的に作業時間に入ると一人なのですがそれ以外の準備や後片づけ、洗濯物等の雑用は皆で声をかけ合い、フォローするという形が出来ています。また、作業時間と休憩時間のメリハリをつけようと気をつけています。以前は、雑用にかかる時間が長く、休憩時間が大幅に削られていました。しかし、リーダーの声かけと雑用の手順や方法を変える事で、時間を短縮し、休憩はしっかり取るという意識が更に高まりました。これらの事で心にゆとりを持ち、焦る事無くより作業に集中する事が出来ています。これらの改善点としてはシフト上で労災に繋がる可能性が高い箇所があるので改善に向け、リーダーを中心に話し合いを重ねているところです。

「労働災害」は自分の身体だけではなく命も危険に晒します。また、労災が起きるという事は「連続無災害日数」がゼロになり、お客様に対する信用や信頼、仲間と積み上げてきたものが崩れ去るということです。一人一人、そして全員が労災に関心を持ち、考え、行動していく事が重要になってくると思います。また、弊社では毎年清掃従事者研修会を行っています。今年は講義・実技の他に「インスリン針のリスクアセスメント」をテーマにグループ討議を行いました。学んだ事を無駄にせず、適切な対処。対応が出来るよう「心のゆとり」が持てる現場環境を皆で作っていこうと思います。

平成27年度　佳作
設備管理部
公立置賜南陽病院
安達昭利

『労働災害と危険因子』

私達の日常生活の中で災害の危険因子はいつもの所、身近な所に沢山潜んでいます。

家庭の中や一歩外に出ての社会活動にも沢山潜んでいます。そして、大切な仕事の場、車や自転車での通勤途中にも沢山潜んでいます。

毎日のテレビや新聞での報道でも災害は日常的に報道されています。しかしながら、私達は危険だからといって何もしないではいられません。私達一人ひとりが個人的にまた職場や社会全体で対策や改善活動を行っています。安全のためには災害防止の活動は今後とも延々と継続していかなければなりません。具体的には指差し確認、5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、躾）KY活動（危険予知）、そして笑顔の挨拶活動等、どれも単純で簡単なことです。そして当たり前のことです。でも「なれ」てくると大丈夫だろうという気の緩みが私達には残念ながら芽生えてきます。最初の頃はあまり目立たないのですが長い間に大きな事故に繋がっていきます。

東日本大震災でも、小さな子供たちが地震の時の行動を教えられた通りに素直に行動して大勢助かったのに今回も大丈夫だろうと思いこみ教えを守らなった大人達は・・・

群馬県の山岳地帯に墜落した日航ジャンボ機も、機体に異常があるようだと数年前から整備部門にパイロットが連絡していたそうですが、点検の結果は問題無いようだとの報告だったそうです。もし、より早く異常個所を発見して対策をしていたならば、あの大事故は防げたはずです。

より早く異常に気付き、発見し、対策をとることが、災害を防止する最も重要なこと1つです。異常とは正常ではないという状態ですが、大切なことは正常に把握していることです。でも、正常はどういう状態ですか？いつもはどのようなものが何個置かれていますか？と突然聞かれて正確に答えられる人が何人いるでしょうか？　災害は発生する前の予防活動が大切です。それには常にベストな状態を把握していればこそ異常をより早く発見し、対策を取ることができ、災害の防止に繋がります。

現在弊社では、全社的にヒヤリハット運動を展開しております。一人のヒヤッとした事やハッとした事を共有することで、次のヒヤリハットを少なくすることができ労働災害防止に繋がります。

また、私達個人の健康管理も労働災害防止には非常に大切です。健康診断は病気の早期発見や予防のために毎年実施していますが、若い人には全然元気だからという健康診断なんか受診しなくても良いよという人もおられるでしょう。しかし、健康診断で異常が発見されて、その後に精密検査を受診したら即入院で命拾いをすることができたという話を聞きます。もし、健康診断を受診しなかったらと思うと恐ろしくなります。仕事中や車の運転中に意識不明にでもなったらと思う・・・

ある有名なスポーツ選手の講演で、健康維持のための活動として、毎日のラジオ体操が非常に効果があるという話を聞きました。単純で体への負担も少ないので年齢を気にせずに取り組め、健康維持の効果も大きいので長い間全国的な活動を継続できたのでしょう。

私達は、より良い商品を、より早く、より低価格で社会に供給するという矛盾のなかで仕事をしています。ややもすると安全は軽視されがちです。しかしながら、一度事故が発生すれば莫大なコストアップになりますやはり安心、安全が最も重要です。

これからも、私達一人ひとりが小さなことにも留意しながら、安心で安全な労働環境、社会環境を築いて行き労働災害不審物・異音を素早く察知し、次の行動へ移す事により事故を未然に防ぐ事になると思います。普段の生活でも一呼吸を取り入れる事により、感情的な時・緊張感が続く場面でも気持ちを落ち着かせる事により、ミスも少なくなると思います。

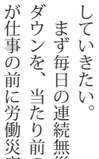
一呼吸を普段から身に付ける事により事故防止に役立つと思われます。

次に必要と思われる事は、集中力を高める事が大事だと思います。悩み事・考え事をしながら仕事をしてしまうと集中力が欠けてしまい、事故に繋がってしまうと思います。工場での大きな事故（切断等）をよく新聞やテレビで見かけたりします。入社したばかりの人ではなく、何年も勤めた人が起こしています。これは集中力が欠けてしまい、油断による事故と思われます。この様なことがないように、普段から危険予測をしっかり行い余計な事を考えず、集中力を高めて行動していく事が重要だと思います。

次に重要なのが規則正しい生活（食事・運動・睡眠）です。これから高齢労働者が増えてくると思われます。車・エレベーター・エスカレーターと便利な物が増え、運動不足になります。労災は梯子・脚立の一段目でも起きます。この様な事が起きないようにするには、やはり食生活ではカルシウムを多くとって骨を丈夫にしたり、危険と感じた時に対応できる運動神経が必要です。普段はにげなく使っているエレベーター・エスカレーターを階段にする事で、つまづいたり息切れしたりと運動不足を感じる事ができますし、運動不足解消にもなると思います。食事も普段から気にかける事により変わってくると思います。睡眠不足は判断を鈍らせるので、しっかり睡眠をとる事が必要と思われます。

同じ仕事をしていると慣れからくる事故は多くなります。どこの会社でも事故ゼロを願っていると思います。事故を起こしても後悔するのは自分です。迷惑も沢山の人にかかります。

我が社の方針に事故ゼロの継続で3つのキーワード「基本作業、集中力、チームワーク」があります。基本作業（ヒューマンエラーの防止）、集中力（緊張感を持つ）、チームワーク（相互チック）で慣れを無くし、不祥事の撲滅を目指し労災ゼロを継続していきたいと思います。



平成27年度　佳作
警備課大沼米沢店
芳村晃栄

『労働災害防止のためにできること』

私が今の施設の警備員になってから早いもので三年半たった。その間、幸いにも労働災害はおこさなかったが、それは私個人の努力のおかげではなく、会社・先輩からの指導の影響が非常に大きかったからのように思える。なぜ労働災害をおこさずに勤務できたか、またこれからも労働災害をおこさないために私には何ができるのか考えて、今後の勤務に生かしていきたい。

まず毎日の連続無災害日数のカウントダウンを、当たり前のようにやってきたが仕事の中に労働災害に意識がいくだけでもだいぶ違うのではないか。この日数は一人が頑張って伸びるものではない。会社の皆が気をつけて伸ばしていく日数であって、これを毎朝声に出してカウントすることは簡単にできることでありながら非常に大きな効力をもつように思える。ぜひ多くの職業・会社で実施していって欲しい。

次に先輩からの指導の徹底。業務内容に関してはもちろんだが、私がためになったのは長年その施設で警備してきた中でおこった色々な出来事の体験談である。突発的な出来事にも臨時応変に対応しなければならない私達の仕事にとって先輩たちの経験を少しでも自分の物にすることは日々の業務がスムーズに行くだけではなく、労働災害防止の上でも非常に役に立っていたように思える。冬季に凍結しやすい場所などは事前に知っているのとそうでないのには大きな差があるし、先輩がヒヤリとした事がもし私にも起こったらと考える事ができた。足場が悪い場所の巡回方法などのノウハウや見通しが悪く人と接触してあぶなかった場所等の知識もとても役にたった。こういった経験を知る事により私でも三年半労働災害をおこさずに勤務できたと思う。では、これからも労働災害をおこさないように私が出来る事はないかと考えたとき、まず同じ職場の仲間との経験の共有化。これを意識していきたい。先に述べたように日々の業務でおこなったことや勤務している施設の知識は多い方がいい。

私の施設では三人で警備業務を行っているが、日々の業務でおこなったことや気になったこと、こういう事があったなどをお互いに話して連絡し合えば一人が体験したことを他の二人にも伝える事ができる。そうしていけば普通なら一人分の経験しか積めなかったところを同じ期間で三人分の経験を積むことができる。また、同じような体験をしても自分はこうしたらいいなどと他の人は違った、などということもあるので一方的な見方だけにならないというのも大きい。では経験を共有化していくうえでどのようなことをしていければいいか、他に気を付けなければならないか。やはり仲間とのコミュニケーションを密にして特別な事だけではなく、些細な事でも引継いだり相談していくような職場環境の形成が大切だろう。必要最低限だけの引継ぎをするのではなく普段から意識して自分の体験した事、思った事を仲間に伝えて、また私自身も仲間が体験した事を聞き、少しでも自分の中に取りこんでいきたい。後は毎日同じだからマンネリしないように気をつけることである。経験上、毎日こうだから今日もこうに違いないと決めつけるのではなく、毎日こうだけど今日は違うのかもしれないという意識をもって日々の業務に取り組みたい。今後新しくこの施設で警備する人の為に重要と思われることは、文章化して残していきたい。

こうして考えてみると日々当たり前のようにやっていることが、そういう小さな事の積み重ねが労働災害防止という大きな目標に繋がっているのだと改めて実感できた。当たり前の事をしっかりと、そして日々の業務で当たり前だと思える事ができるように違いないと決めつけることは、そのまま通り過ぎずに、一度立ち止まって仲間と相談・確認をしっかりとして、今後も労働災害をおこさないように勤務に励みたい。

平成27年度　優秀賞
警備課川西町役場
須藤俊則

『労災は普段の心構えから』

労災を無くす為に様々な会社で取り組んでいるにも関わらず、発生件数も減らず、死亡事故や命に関わる大きな事故が毎年、新聞に出ているように思います。我が社でもヒヤリハット報告書を作り、何かヒヤリとした事があれば記入し会社へ提出しています。その提出した報告書を会社の安全衛生委員会で対策し、事故を無くすように取り組んで頂いています。これにより今まで起きた事例が分かり、みんなで共有し合い、労災が起きないよう注意する事ができます。仕事では労災が起きないように注意して業務にあたっていますが、仕事から外れるとどうしても油断してしまい、怪我をしてしまうと思います。やはり労災を無くすには日頃からの注意力が必要になってくるのではないかと思います。職場と私生活ではないかを述べたいと思います。まず、急のつく行動を行わず一呼吸置いてから行動に移す事です。一呼吸を置くという事は、一度呼吸をし、間をあけることで冷静さを取り戻そうとすることを意味する表現となっています。

私の行っている警備の仕事では、巡回業務での安全確認で行っています。ドアを開ける時、開けた後でも「一呼吸置く事で五感を働かせ、不審者の有無・異臭・不審物・異音を素早く察知し、次の行動へ移す事により事故を未然に防ぐ事になると思います。普段の生活でも一呼吸を取り入れる事により、感情的な時・緊張感が続く場面でも気持ちを落ち着かせる事により、ミスも少なくなると思います。

一呼吸を普段から身に付ける事により事故防止に役立つと思われます。

次に必要と思われる事は、集中力を高める事が大事だと思います。悩み事・考え事をしながら仕事をしてしまうと集中力が欠けてしまい、事故に繋がってしまうと思います。工場での大きな事故（切断等）をよく新聞やテレビで見かけたりします。入社したばかりの人ではなく、何年も勤めた人が起こしています。これは集中力が欠けてしまい、油断による事故と思われます。この様なことがないように、普段から危険予測をしっかり行い余計な事を考えず、集中力を高めて行動していく事が重要だと思います。

次に重要なのが規則正しい生活（食事・運動・睡眠）です。これから高齢労働者が増えてくると思われます。車・エレベーター・エスカレーターと便利な物が増え、運動不足になります。労災は梯子・脚立の一段目でも起きます。この様な事が起きないようにするには、やはり食生活ではカルシウムを多くとって骨を丈夫にしたり、危険と感じた時に対応できる運動神経が必要です。普段はにげなく使っているエレベーター・エスカレーターを階段にする事で、つまづいたり息切れしたりと運動不足を感じる事ができますし、運動不足解消にもなると思います。食事も普段から気にかける事により変わってくると思います。睡眠不足は判断を鈍らせるので、しっかり睡眠をとる事が必要と思われます。

同じ仕事をしていると慣れからくる事故は多くなります。どこの会社でも事故ゼロを願っていると思います。事故を起こしても後悔するのは自分です。迷惑も沢山の人にかかります。

我が社の方針に事故ゼロの継続で3つのキーワード「基本作業、集中力、チームワーク」があります。基本作業（ヒューマンエラーの防止）、集中力（緊張感を持つ）、チームワーク（相互チック）で慣れを無くし、不祥事の撲滅を目指し労災ゼロを継続していきたいと思います。